

令和元年度学校評価の概要

重点目標	<p>1 授業や家庭学習の充実、学習環境の整備により確かな学力を身に付けさせ、生徒一人一人の進路目標の実現を図る。</p> <p>2 安城東高生としての品格を重んじ、他者を思いやる心を育み、学校内外でのマナーの向上を図る。</p> <p>3 学習活動、部活動、学校行事の三位一体となった学校教育活動の充実を図り魅力ある学校づくりを進める。一方で、勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止に努める。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<ul style="list-style-type: none"> 中学生や保護者に対する広報活動の充実 生徒・職員の防災意識の向上と激甚災害時の初動体制の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校訪問の対象校、時期、内容を改めて検討する。 防災避難訓練等を通して、生徒・職員の防災意識を高める。 激甚災害時の帰宅方法について家庭との連携を密にし、生徒の安全に留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職と連携し、データ等の資料を充実させ、各校に対する説明を工夫した。 障害物を設けるなど実際に被災した状況を意識した。生徒は真剣に取り組んでいた。今後も、形式に捉われずより実践的になるよう考える。 行政機関による激甚災害時の対応の見直しが行なわれる中、集団下校訓練も、安全第一を考え再検討していきたい。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程編成の検討 教室環境の整備と活用 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領や新たな時代の教育の視点から、教育課程編成を検討する。 老朽化した椅子・机等を計画的に交換する。 マルチメディア教室の活用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科主任会を通じて、定期的に各教科の意見を集約することができた。 新しい机、椅子を年度末に購入し、交換を進めた。今後も限られた予算を有効に活用し、継続的に交換していきたい。 英語の授業だけでなく、他教科でも積極的に使用しており常時使用している状況で大変好評である。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テストに向けた校内体制の確立 各学年におけるキャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 適切に情報収集を行い、生徒にとって最善の対応を図る。 調査書・ポートフォリオ作成のシステムを構築する。 進路行事、総合的な探究の時間の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種研究会に参加をして情報の収集を行った。全職員に新入試の基本事項の確認を行い共有を図ることができた。 ポートフォリオは紙ベースで活動内容の集約を行った。 進路行事、総合的な探究(学習)の時間を通して、将来の職業や大学・学部・学問内容などを考える機会を設け、キャリア意識の向上を図ることができた。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に対する意識の向上 いじめ防止対策の推進と徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室を実施する。また、交通事故等に基づいた情報提供と注意喚起を行う。 登下校時の定期的な交通安全指導を実施する。 いじめアンケート等を通して、早期発見・対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな事故は無かったが、事故報告件数は昨年よりも増加した。例年よりも自損事故や自転車同士の事故が増えた。 注意喚起等を促せば一時的にはあるが効果はみられた。根気よく指導に当たることが重要である。 アンケートや面談を効果的に実施することにより、大きなトラブルに発展する前に対応することができている。
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> 通常清掃の徹底 相談活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 全校体制で清掃活動の充実を図る。 問題を抱える生徒の早期発見を図り、担任会や個人面談、AMI調査等を活用する。 分掌とSCの連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校でしっかり取り組んでおり、清掃状況は良好である。生徒は自主的によく取り組んでいた。 健康観察や保健室利用状況、学年からの連絡をもとに、対象生徒について学級担任、養護教諭、SC、保護者がしっかり連携をとりながらサポートできた。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の充実 ・部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会通信等を通じて生徒会活動への参加意識を高める。 ・社会貢献活動を推進する。 ・時間を有効活用し、効率の良い活動内容を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部内でさまざまな議題を提案し、例年以上に積極的に活動している。生徒会通信を定期的に発行することができた。 ・少ない時間のなかで、生徒は前向きに活動できている。
ユネスコ・国際教育部	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育の充実 ・ユネスコスクールとしての活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な情報発信を通し、生徒の国際理解を促す。 ・異文化交流を深め、国際理解教育の充実を図る。 ・PTAと連携し、ボランティア活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪豪団は、無事研修を終えることができた。留学生を囲む会や全校集会での報告会を行うことで研修内容を他の生徒にも伝えることができた。 ・PTAの方々や生徒たちの協力で地域のボランティア活動に参加することができた。今後も継続していきたい。
図書部	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の適切な管理 ・高校生に即した図書館活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書点検を適切に行う。 ・魅力ある図書館整備を行い、図書館利用と読書の推進を行う。 ・進路目標の設定等に活用できる図書館活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用者数も毎年順調に伸びており、書籍の配置等の工夫の効果はあったと思われる。 ・総合的な学習の時間のための進路研究等の特設コーナーは大変好評であり有効であった。設置の意義は十分にあったと考えられる。
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・東高生として生活の基礎・基本の確立 ・適切な類型選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・早く高校生活に適応させ、基本的な生活習慣及び学習習慣を身に付けさせる。 ・落ち着いた学習環境を整備する。 ・進路説明会等を実施し、進路情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻統計や学習時間調査の結果から、年度当初に掲げた「安城東高生としての生活の基礎・基本の確立」という目標をおおむね達成できたと考えられる。 ・ほとんどのクラスで学習環境が整えられていた。今後もすべての教室の学習環境が整うよう継続していきたい。 ・類型選択については、各クラスの担任の的確なアドバイスによって生徒は円滑に適切な選択をすることができた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の諸活動の中心であるという自覚をもたせる ・進路目標の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事、学習活動に積極的に取り組ませる。 ・面談や生活記録等から生徒理解に努め、悩みや不適應等を抱える生徒の情報共有や早期発見と対応を行う。 ・進路便り等により進路情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの部活動が、大会での上位入賞という成果を得た。入賞には至らなかった部活動も、それぞれ目標をもって意欲的に活動に取り組んだ。 ・面談や日常の声かけを通じて、生徒の変調を早期に察知するよう心がけ、担任会・学年会で情報共有ができた。 ・進路だよりは1月末時点で50号まで発行した。志望校を考える際、様々な視点をもって考えることを促し、進路意識を高めることの一助とできた。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年の自覚をもたせるとともに社会人としての資質を磨く ・進路目標の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・東高の伝統を下級生に引き継がせる。 ・自己、他者理解を深めさせ、人を思いやる心を育成する。 ・進路目標を明確化し、必要な家庭学習を確保させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な面で、上級生としてリーダーシップを発揮できた。 ・登録自主学習の時間には各生徒が集中して学習に取り組むことができた。 ・受験のプレッシャーで精神的に不安定になる生徒もいたが、仲間の支えや教員の声掛けにより、多くの生徒が進路希望調査や学習時間調査において、継続的に努力する姿勢が見られた。

総合評価	<p>今年度は、学習環境の整備、生徒の進路実現、学習活動・部活動・学校行事の三位一体の教育活動の充実に力を入れた。創立44周年にちなんで、「安城東しあわせプロジェクト」と銘打って、本校の強みを生かしながら、目標達成に向けて魅力ある学校づくりを目指した。その結果さまざまな成果をあげることができた。主なものとして以下のことがあげられる。</p> <p>学習環境の整備として、マルチメディア教室が5月に完成し、グループディスカッション、ICTを活用した学習など、新しい学びを実現する授業が実践できた。全教科で活用でき、授業改善が進んだ。また、図書館もより充実したものになった。進路について考える本、学習方法について参考になる本をはじめ蔵書を充実させ、配置も工夫した。生徒だけでなく保護者にも好評を得た。</p> <p>生徒の進路実現として、新入試対策委員会を実施し、来年度からの入試対策について具体的な検討を進めることができた。また、生徒の志望にあったきめ細かい進路指導を心がけ、機を捉えた進路講演会を行った。その結果、入試に対して最後まで粘り抜く雰囲気が醸成され、多数の生徒が希望進路を達成できた。</p> <p>部活動・学校行事が、学習活動や学校の活性化に好影響をもたらした。部活動では多くの部が健闘して、県大会出場を果たすことができた。学校行事では、訪豪団、シンガポール研修ともに参加希望者が増え国際交流活動への関心は高まっている。文化祭にて、SDGsをテーマにしたプロジェクトを実施し、生徒の意識の高さを感じることができた。</p> <p>次年度はさらに魅力ある学校づくりを進めていきたい。</p>
------	---